早稲田大学インターンシップ 報告書

学　部	人間科学部	学　年	学部 3 年
提携プログラム名	jeki DX インターン		
受入機関名･部署名	株式会社ジェイアール東日本企画 メディアマーケティングセンター		
実習期間	2021 年　8 月　30 日　～　9 月　3 日（実働日数：5 日）		
実習テーマ	リアルとオンラインを融合した ”新しい広告コミュニケーション” 企画		

受入機関・部署の概要
株式会社ジェイアール東日本企画は総合広告代理店であり、JR 東日本の子会社として発足した。ソーシャルビジネスだけではなく、マーケティングビジネスにも力を入れている。 メディアマーケティングセンターは、データやデジタルソリューションを活用して jeki オリジナルな「メディアの新しい価値の構築」に取り組んでいる。また、重要施策の 1 つとして DX を掲げている。

実習内容
今回のテーマは、リアルとオンラインを融合した ” 新しい広告コミュニケーション ” の企画である。メディア（テレビ、OOH、WEB）やリアルな場の展開活用、新しいメディアコンテンツ展開をチームで考えて発表した。チームは 6 つあり、計 36 人であった。また、初日から最終日まで全てオンライン（zoom）で行われた。 インターンでは、「メディアとデジタルの現状および活用事例」や「広告におけるデータ活用事例」の特別講義を受けつつグループワークを行い、チームごとに具体的な提案内容を話し合った。オープンデータを用いてメディアとデジタルをどう組み合わせるか、そして新規かつダイナミックな施策を考える必要があった。 他にも若手社員によるパネルディスカッションや座談会があり、先輩方の率直な感想を聞くことができた。最終日にはオンライン懇親会があり、メディアマーケティングセンター長や今年入ったばかりの社員、人事部の方などとお話したり質問したりすることが出来た。

獲得目標と成果
私の目標は、データの分析・活用方法を学んだ上で適切に活用し、施策の論理性や納得感を上げることであった。結果として、施策を発表した際にメディアマーケティングセンターの方からデータの展開についてお褒めの言葉を頂くことができた。 インターンで目標を達成するために気をつけたことは、主に 3 点ある。まず、データを正しく理解することである。データ分析を始める前に、そのデータがいつ、どのような目的や方法で取られたのかを考え正確に理解することで、適切な分析方法がわかる。次に、データ分析で現れた結果を真摯に受け止めることである。実際に分析をしていると、自分たちの意に沿わない結果になることが多々あった。最初は驚いてしまったが、そのような結果になった場合はどのような原因があったのかを考え､改善点を示した上でチームのメンバーに知らせるようにした。 3 つ目は、わかりやすくデータを提示することである。いくら分析が素晴らしくても、見ている人が誰も理解出来なかったら全く意味がないのである。

実習で感銘を受けた体験と感想

インターン初日にアイスブレイクの時間があり、自分たちのグループの自慢を考えて発表した。その際に、とても優れた実績を持っている人が多くて驚いた。例えば、ダンスの世界大会で優勝したり、論文で有名な賞を取っていたり、アプリを何十個も開発しコンテストで優勝したりしているなどである。今までそのような人に出会ったことが無かったので、とてもワクワクしたのを覚えている。私の班にも見取り図や３次元コンピュータグラフィックスを製作することが得意な人がおり、発表の際に短時間でクオリティーが非常に高いグラフィックを製作していて感銘を受けた。
全体的な感想として、0 から 1 を生み出すことはとても大変であるが楽しいと感じた。とても大事なことは、いかに固定概念を壊すかである。ただ新しいものを発明するだけではなく、今あるものの新しい使い方を考えたり、未知の組み合わせを考えたりするなど工夫することがとても大切であると思った。

実習を終えての今後の課題

インターンを終えて課題だと思ったことは、議論の駆け引きである。出来るだけ結論を最初に話すようには心がけていたが、それでも話が通じなかったり大事なことが伝わらなかったりすることがあった。今後は、発言したい時に無思考で発言するのではなく、タイミングを見計らう必要があると思った。特に意見が対立しているときは議論が平行線になり停滞することが多く、発言するタイミングの重要性を痛感した。その他にも、別の観点で考えてみたり、話題を変えて考えるべき順番を変えたり、それでも進まないときは休憩を入れたりするなど工夫することが大切であると思った。勿論、意見が対立すること自体は悪いことでは無い。対立している意見に気を取られて進まないせいで議論が纏まらず、提案できないことは絶対に避けなくてはいけないのである。
また、自分の発言が長くなった時に、「長くなってすみません」と一言付け加えるだけで場が円滑になると感じた。チームメンバーを気遣う発言は必要不可欠だと思う。

自己評価と総括

５日間のインターンを通して、広告の見方が大きく変わった。今まではテレビや SNS の広告を何も考えずに見ていたが、広告には全て意図があるということを深く考えるようになった。目に入る広告について、どうしてこの媒体を選んだのか、どのような属性をターゲットにしているのか、見た人がどのような行動をするのか、この広告にかかった費用はどのくらいであるかなどを考えるうちに、１つの広告の裏には数多くの議論や提案が隠れていることに気づかされた。また、良い広告を作る上でデータは大切な武器になると感じた。これからはデータの時代だと言われているが、こんなにも身近なところでデータが活用されているとは思いもしなかった。インターン中の講義でデータは必要不可欠であると何回も説明していたが、その意味がやっと分かったような気がした。
そして、やはり私はデータを見て分析することが大好きであると気づいた。インターン中にデータを見たり加工したり分析したりすることが、私にとって至福の時間だった。将来はデータに関する職に就きたいと強く思った。

実習に際しての諸費用　※地方・海外実習者のみ

交通手段：なし	交通費：なし
滞在先：なし	宿泊費：なし
その他諸経費：なし	